

肉の安全・安心は
北陸ミートから!

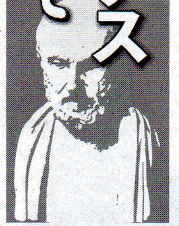
HACCP システム対応 **北陸ミート株式会社**

本社・工場 / 富山市金屋 2718 番 13

☎(076)443-7272 (代)

富 山

ヒポクラテスを 超えて



>3<

◆語り部活動

「本人は指一本動かさない。しかし、一生懸命生きていて、必死になって言葉を発しています」

2011年6月2日、

県立大学(射水市)。松尾幸郎さん(77)はこの日、初めて「語り部」となって学生150人の前に立ち、妻巻子さん(70)との日々を語った。事故や介護の体験。時折、涙声になりながら話すと、学生たちは身を乗り出すように聞いた。

「何としても2人の経験を世間に知らせたい」。そんな願いを趣味の柔道教室で漏らしたことがきっかけで、人づてに話が伝わり講演につながった。

幸郎さんの語り部活動

た。学校や自動車学校、一般企業。講演数は11年15回、12年22回、13年33回と年を追うごとに増えた。

ところが巻子さんは09年4月21日、こう伝えた。

「まみい(マミー)をころしてください」。この日を境にこんな言葉が交じるようになった。「いっしょにしたいの」(10

世間に伝えたい

年10月)。「まきこはしにたいの」(12年2月)。

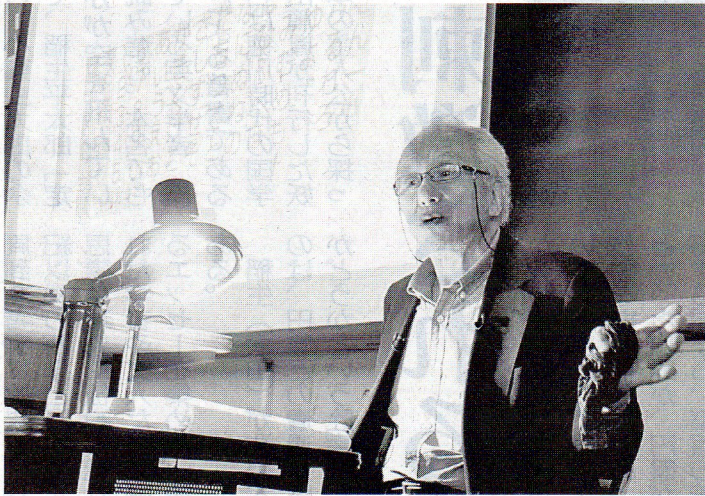
◆スイスへ

「巻子は『いつも一緒にいたい』と言います。

しかし『あなたと死にたい』『殺してほしい』とた。『死ぬ権利協会世界も繰り返し言っているいま

連合』が2年おきに開く世界会議。ゲストとして呼ばれてスピーチをした

12年6月、幸郎さんは呼ばれてスピーチをした(63)だ。



会話補助機の説明をしながら講演する松尾幸郎さん
—射水市の県立大で2011年6月2日

のだ。

「死にたい」と繰り返し巻子さん。「このようにな生かされ方に尊厳はあるのか」。そんなことを考える日々だ。「今の日本では、終末期の患者が尊厳を失わないで、人間らしい、本人らしい最期を迎えることができる法律の担保がありません」。体験から出る素直な疑問と訴えだった。

◆女優魂

一方、語り部活動は広がりをみせる。13年10月3日、岐阜市の岐阜県シンクタンク庁舎。聴衆を

岐阜では手応えがあった。「事実が持つすごいのは、私のような者が読んでも確実に伝わることを感じましたね」と語る木内さん。今年5月には兵庫県尼崎市で代読講演がある。「聞いてみたいという方がおられれば、私はどこへでも行くつもりです」

2人の物語がNHKでドキュメンタリードラマ化(12年)された際、巻子さん役を演じた木内さん。2人の話が事実ということが木内さんの胸を打った。昨年夏に富山を訪れた際、幸郎さんに言った。「私にできることがあれば、何でもします」。岐阜から講演依頼があるが、巻子さんの介護で県外に出られない。幸郎さんが言うところ木内さんは二つ返事で答えた。「やりましょう。台本を代読しますよ」

〆つづく